

在宅で 生きる

vol. 8

2月号

2015.2.1.Sun
練馬区 健康福祉事業本部
地域医療担当部地域医療課
医療連携担当係
TEL:03-5984-4673

特集 在宅療養を支える人々 シリーズ2 — 訪問看護師 —

◆ 訪問看護とは

在宅療養生活は、様々な職種が連携・協力することで実現しています。そこで「在宅で生きる」では、今後、連載シリーズとして、在宅療養を支える人々の役割とその活動について、実際に練馬区で活躍する方々に対するインタビューを通して、区民の皆様にご紹介をしたいと思います。

第一回目の「在宅療養支援診療所」に続き、第二回目は「訪問看護」についてご紹介します。

今回は、練馬区上石神井でご活躍なさっている「あすなる訪問看護ステーション」の男沢明美様に、訪問看護師の役割とその実際について教えて頂きました。

Q1 あすなる訪問看護ステーションで取り組む「訪問看護」の業務について教えてください。



訪問看護では、医師の指示のもと、看護師などが居宅を訪問して療養上の世話や必要な診療上の補助を行っています。具体的にいうと健康状態の観察（血圧・体温・脈拍・呼吸など）、日常生活の看護（清潔ケア・食生活のケア・排泄ケア・環境整備など）、在宅リハビリテーション、精神疾患や認知症の看護、終末期の看護、療養生活や環境改善のアドバイス、介護者の相談などです。人工呼吸器や在宅酸素・持続点滴などの各種医療機器を使用しながらでも自宅で最期までその人らしく暮らせるように他職種と協同しながら療養生活を支援しています。

練馬区内の訪問看護ステーションは約50事業所あり、それぞれに特徴がありますが、当ステーションでは、24時間の緊急体制を取り、終末期看護の場面では訪問診療医と連携を取りながら看取りまで支援します。また、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がおり、看護師と連携しながらリハビリを提供しています。

Q2 在宅療養患者さんやご家族が訪問看護サービスを利用することで得られる利点や、その具体例について教えてくださいませんか？

介護をされるご家族の多くは不安を抱えていらっしゃいます。例えば、すぐに退院したのはいいが容態が急変したらどうしたらいいのか？認知症で入浴や食事を嫌がるようになったがどうしたらいいのか？在宅で生活させたいが介護ができるか不安・・・など、ご家族にとって療養生活はわからないことだらけです。訪問看護師は利用者様やご家族に寄り添いながら、専門的な知識や経験を活かし不安が安心に変わるよう支援しています。

年末にお看取りをした事例ですが、この方は終末期にあり一兩日中に息を引き取るだろうと医師に診断されました。夜になり看護師は電話で呼吸の様子を伺い、家族を不安にさせないように気を配りながら「これからは顎で呼吸をしたり肩で呼吸をしたり、浅くなったり深くなったり、不規則になります。」など死期が近いことをお伝えしました。その1~2時間後に永眠されましたが、ご家族からは「看護師さんが説明してくれたとおりになり最期の瞬間を看取ることができてよかった」と感謝の言葉を頂きました。

私は、訪問看護サービスは予防から介護、そして医療に至るまで利用者様とご家族にとっての「安心」を提供するサービスだと考えています。

Q3 現在進めている在宅療養サービス提供者間での多職種連携が、訪問看護業務や患者さんの生活にどのような利点があるのか教えてくださいませんか？

在宅療養生活は訪問看護師だけで成り立つものではなく、様々な社会資源を利用して成り立っています。特に、今後は練馬区でも後期高齢者が増えることに伴い、年々医療依存度の高い方が増える傾向にあると言われています。これまでは介護だけで済んでいた方も医療関係のサービスが多く関わるようになり、介護と医療の連携が必要となってきます。言葉だけでは伝わらない部分も多いことから、日頃から「顔の見える連携」を図ることで、利用者様が安心して在宅生活を送れるように支援したいと考えています。



在宅療養推進協議会・在宅療養専門部会では多職種が一堂に会し、様々な検討や意見交換を行っています。訪問看護師の立場としてはこういった場を通じて多職種協同し、利用者様とご家族が安心して生活できる質の高い在宅療養の実現を目指したいと思っています。

Q4 訪問看護師としてのやりがいや、今後の抱負について教えてくださいませんか？

訪問看護をしていると利用者様やそのご家族から教わることで多くあります。人間としての生き方や最期の迎え方、家族の在り方、我慢や忍耐、優しさや笑顔の大切さ等です。それは、訪問看護が利用者宅に入り、ご本人やご家族の自然な生活を目の当たりにするからなのだと思います。利用者様のその人らしい生き方に寄り添いながら柔軟な発想で、「この人のために何ができるか」と考えている過程が一番やりがいを感じています。

これからも在宅療養生活をされる多くの利用者様に関わりながら、生活を支える看護の提供に力を注ぎたいと思います。